

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1951380003		
法人名	医療法人社団青虎会		
事業所名	グループホームはまなす		
所在地	南都留郡富士河口湖町船津2207		
自己評価作成日	平成22年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日			

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

観光資源、自然環境に恵まれた立地条件で、イベントへの参加や充実した外出機会を設けやすいため、入居者は活動的である。庭仕事や畑仕事を入居者と一緒に行い、採れたての野菜を調理し召し上がっていただいている。リスクマネジメントの取り組みとして、気づいたことをその都度ヒヤリ・はっとシートに記入し、入居者の危険を事前に防止するよう努めている。家族との連絡を密にし、要望・クレーム等には特に傾聴し、家らしい生活が出来るよう努力している。自治会に加入し、イベントや町の清掃や避難訓練へ参加し、入居者が地域の一人として、地域へ積極的に出かけている。職員間で常に相談しあい、信頼して働けている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域との関わりと楽しく豊かにという理念は、日頃の活動が細分に活かされていて、併設の託児所との関係にもうかがえる。また、職員の子供が託児所を利用していることで安心して働ける環境が確保され、利用者との良好な関係にもつながっている。ケアマネジメントに関しては、アセスメント・計画・実践・評価が日頃の利用者の様子に簡潔に記入されていて、履歴も見やすく情報の共有化に工夫の跡が見える。利用者が出来ることは積極的に参加してもらおう姿勢は、調理やレクリエーションの準備などでうかがえる。利用者も職員もともに、飼い犬の食事を心配している様子は、まさに家庭・家族であると感じる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームはまなす

[セル内の改行は、(Altキー) + (E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に「地域の方々と共に、ゆつくり一緒に楽しく豊かに」という理念を掲示し、地域密着サービスの意義を職員全員が理解し、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを展開している。	「地域で暮らし続ける」「地域との支えあい」「本人本位」「継続的な支援」の4点を踏まえた事業所独自の理念をつくり上げている。ミーティング・申し送り時などで理念を全職員に徹底し、職員の日頃のケアは理念からぶれないサービスを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接住民が、ホームに立ち寄り声かけをいただき、入居者と交流している。納涼祭には自治会の方々も多数参加される。自治会に加入し、地域清掃・避難訓練・忘年会・祭りに準備から積極的に参加している。	季節の催しや自治会行事に参加するだけでなく、地域の一員として自治会の活動を積極的に行っている。近隣の人との交流はもちろん、組の掃除当番をこなすだけでなく、公園のゴミ拾いを散歩の際に行うなどのアクションを起こしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公園・公民館のゴミ拾いを率先してやり、積極的に行動し、地域高齢者の活動意欲を啓発している。ひばりやすらぎ会への参加など地域のみなさんとふれあい、お互いに知る機会を増やしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・町役場・地域包括支援センターの方々にお越しいただき、入居者の活動状況や、評価への取り組み状況を報告し、貴重な意見を頂きながら、意見交換しサービス向上につなげている。	事業所からの情報提供・報告だけでなく、運営推進会議を事業所の避難訓練・納涼祭・いも堀り・大掃除などの行事と併せて開催している。このことが委員の積極的な参加と意見・提言に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、密接に連絡を取り協力している。	積極的に町担当者や地域包括支援センター相談員のところに出向き、地域密着型サービスの現状、待機者に関する事など情報を共有して連携を深める努力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より拘束によるダメージを周知徹底し、拘束は行っていない。玄関にドアベルをつけ、鍵をかけることはない。職員は入居者が外へ出て行かれるときも一緒に行動している。入居者が自身の想いを言いやすいような雰囲気づくりや対応をしている。	職員は利用者一人ひとりの行動の背景を把握しており、その日の気分や状態を察知し、きめ細かい対応をしている。日常の会話の中でも話を遮ったり、本人が萎縮してしまうような言葉などは特に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し学んでいる。参加した職員は、他職員へ伝達し、生活・ケアを見直している。職員同士、ケアで迷うことはお互いに、相談しあうようにしている。ひやり・はっとシートに記入し、少しの変化に大勢の目で気づけるようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し学んでいる。参加した職員は、他職員へ伝達し、日々の生活・ケアを見直している。本人の権利を代弁する意識を常に持ち、迷ったら「○○さんならどうしたいと思っているかな」と考えるようにしてる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて十分な説明を行い、理解・納得の上で同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口・第三者の窓口は、重要事項説明書に記載している。契約時に口頭で説明もしている。意見・苦情には、迅速な対応をしサービス改善に努めている。ホーム玄関に意見箱の設置をし、面会時声かけをするようにしている。	家族からの意見・要望は面会時などに、居室やフロアのソファで茶饮みながら何でもいってもらえるような雰囲気づくりに努めている。利用者本人の食べたいものであったり、これからどうしたいかなど、利用者・家族の希望を把握し、迅速な対応を心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気づきを大切に、ミーティングや申し送りノートにて業務改善の話し合いをしている。毎週の検討会に参加し、入居者の対応で心配なことを相談している。入居者にとって、必要なことは迅速に変更し、全職員が統一した対応に心がけている。	毎日の申し送りやミーティング・報告連絡会など管理者も参加し、職員の気づき・意見を汲み取り、改善へと結び付けている。職員のための託児所が敷地内にあり、子育て中の職員にとって心強い支援となっている。また、ホーム利用者と子供たちの日常的な交流が双方に良い影響を与えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働きやすい職場を目指し、声掛けを行っている。相談に対し、互いに思いやりをもち、迅速な対応を心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国・県グループホーム協会に加盟し、研修に参加している。研修後、報告会を実施し、職員が周知出来るようにしている。学習委員を中心に月1回は、勉強会を実施している。参考になる書籍を置き、読めるようにしている。日々の介護の中で、都度話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修等に参加し、業務上の悩みを話し合っている。また、職員の親睦会にも参加し、意見交換をしている。年末の家族との大掃除など、他ホームが実践している良い例を、取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前には訪問調査を行い、入居者の状態の把握と不安や悩み、要望の聞き取りをしている。入居前の担当介護支援専門員や地域包括支援センターより情報を聞き取るようにしている。入居前に家族にお茶を飲みに来ていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず入居前には訪問調査を行い、入居者とともに家族の不安や悩み、要望の聞き取りをしている。家族構成・生活歴等をふまえて対応している。入居前に家族にお茶のみにきていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの情報をもとに見極め支援している。グループホームの説明を十分に行い、入居前には、実際に見学に来ていただき、お茶を飲んだり、雰囲気を知っていただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場となり考え、先回りしすぎず、入居者のペースで生活できるよう支援している。食事作りや漬物作り・外出・家事・あみもの等、入居者とともにやり、調理方法や味付け等を教えていただいたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の持っている悩み、不安を共有し、入居者を一緒に支えていく関係を築いている。特に、行事と一緒に参加していただくことで、共有できる機会をつくるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の大切な人とのふれあいとして家族交流会や納涼祭等に参加いただいている。入居者の自宅や行きたい場所への外出支援をしている。地域の方と会う機会をもっている。民生委員の方と認知症について話す機会も持てた。	入居時にセンター方式を利用して、本人の生活背景を把握している。幼馴染みに訪問してもらったり、地域の民生委員・区長が来訪した際に外出支援を受けることもある。帰宅・自宅近くの神社への初詣・馴染みの飲食店への外出など、繋がりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の一人ひとりの性格を把握し、職員が中間役となり、入居者全員で楽しく話したり、けんかしたり、支えあい生活出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ホームに遊びに来ていただいたり、近況報告をしている。年賀状のやり取りをしている。近くにきたからと、近況や、自身の介護体験を話しに来てくださる家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で意向の把握や日々の生活リズムの把握に努め、ケアに活かしている。また、良い表情をされていたり、喜ばれていることを一人ひとり把握し、職員間で申し送りを行っている。	申し送りノートに利用者一人ひとりの思い・意向・希望など、その日気づいたことを利用者ごとに記入している。個々の気質やその日の調子も違うので、ゆったりと一緒に時間を過ごし、気持ちに寄り添うような傾聴の時間を持つような努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に訪問調査し、全てにおいて、本人・家族から情報を得ている。面会時に状況報告すると、「そういえば・・・」と在宅でのことを教えていただき、ホームでの生活に取り入れられている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居される前に訪問調査して、入居者一人ひとりの状態を把握している。こだわりの強い方へは、職員が同じ対応できるように日々の申し送りを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族の要望を聞き取り、全職員が共通のシートを用いて共有している。また、介護ミーティングにおいて意見交換をかわし作成している。随時見直しを行い、状態変化時には早急に見直しを行っている。	職員全体で共通シートを使い、アセスメント・計画・実践・評価・課題を検討している。シートには家族・本人の希望も記入している。これを基に介護ミーティングを持ち、意見を出し合い計画をたてている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や状態は、毎日具体的に記入している。また、ヒヤリ・はっとシートにも記入し、ケアプランに反映している。申し送りにて日々の変化を詳しく把握し、情報の共有・実践・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設と協力し合い、柔軟な対応をしている。グループホームだからと、とらわれずに、何がこの方に必要かをみていくようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族交流会や納涼祭等を企画することにより、多方面のボランティアの方々や家族・近隣住民に参加していただいている。日常的に近隣施設等も利用しており、さらに開拓していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される医療機関へ受診されている。	本人・家族の希望を大切にし、安心して医療が受けられるよう支援している。基本的には家族対応としているが、家族が対応出来ない時は事業所が受診支援している。受診後は互いに情報の共有化をはかっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の協力が得られている。1日1回は入居者の健康状態をチェックに来てもらっている。また、夜間帯もすぐに相談でき対応できる状況にある。看護師より民間療法(家でできること)の指導も受け、取り入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や家族に話しを聞き、連携を図っている。入院した場合は、すぐ様子を見に行き病院関係者と協力し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族の意向を聞き、かかりつけ医、併設老人保健施設の医師等と連携を取っている。カンファレンス・ミーティングを随時行っており、入居者の状況確認をしながら、チームの連携を図り支援を行っている。	入居時から家族と話し合い、ニーズや状況に合わせて対応している。看取りの支援は、日常のケアの延長線上にあるとの意識を職員は共有しており、一人ひとりの大切な一日と考えている。これまでに2人を看取ったが、職員のきめ細かい支援と、利用者同士のメンタル面での支えもあった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修の参加、また、管理者からの指導により応急手当を出来るようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や夜間の呼集訓練と、さまざまな状況を想定して日々訓練している。町の消防署の協力や運営推進会議にも協力をお願いしている。地域の避難訓練にも参加し、顔馴染みでお互い様の関係づくりをしている。	昼・夜間を想定し、月1度の避難訓練を行っている。運営推進会議も併せて行い、実体験からの具体的な意見も出され、改善に結び付けている。自治消防団はないが、地域の避難訓練に参加したり、すぐ近くの消防署の協力を得ての訓練・講習もしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた対応をし、入居者の快い生活を求めて介護に従事している。個人情報の取り扱いには十分配慮している。自尊心を大切に声かけをしている。	利用者、一人ひとりの尊厳を守り、言葉かけや接遇に配慮し、個人情報の保護にも配慮した対応をしている。カルテ・申し送りなどの記帳も他の人の目に触れないよう注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立は入居者の食べたいものを相談して決め、買物時、希望する食材があれば献立を変えたり、外出希望があれば外出するなど入居者の自己決定を大切にしている。職員からも提案し入居者の気持ちを汲み取るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで仕事をするのではなく、入居者の立場となり考え、入居者のペースで生活できるよう支援している。タイムテーブルはなく一人ひとりの生活のペースを把握するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望を第1に考え、個性を大切に支援している。また、入居者一人ひとりに合わせ理美容院を利用しており、入居者の希望にそった髪型にしている。好きな服やエブロンなどをすすめていたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、入居者一人ひとりの出来ること、好きなことを考慮しながら、季節感のあるものを取り入れ、一緒に準備、片付けを行っている。食事と一緒に食べ、おいしく召し上がれるよう心がけている。	百歳を越えた人も、野菜の下ごしらえなどに力を発揮しており、準備から後片付けまで個々の力を活かしながら、職員も一緒に行っている。職員・利用者が食卓を囲み食事を楽しみ、食材の事・好き嫌いなど会話も弾んで楽しい時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の栄養士に相談し、水分摂取はこまめに職員が働きかけ、摂取量の少ない入居者には声かけしている。日頃より水分摂取の大切さを入居者に話している。嚥下のよくない方には好きなコーヒーやゼリーなどをすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の目が行き届くフロア洗面所にて入居者に合わせた口腔ケア・舌のケアを行っている。睡眠前に義歯の洗浄の声かけや介助を行っている。風邪予防になることも伝え必要性を話している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせ、リハビリパンツやパットを使い分け、自分でトイレに行くことの少ない方には、自立に向けて随時トイレ誘導を行っている。失禁があってもパット使用への抵抗がある方には、自尊心を傷付けないようにトイレにパットを設置し、自然と使ってもらえるよう工夫している。トイレ動作がわからない時も水分を促し、失敗しても傷つかないように対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防とし、毎朝は牛乳、お風呂上りや散歩後などは適時ヤクルトを飲んでいただいている。また、可能な限り散歩へ行っている。便秘予防のメニューを配慮している。主治医へ相談し服薬されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入れるようになっている。利用者の好む時間帯や温度を把握して声かけしている。拒否する利用者には家族に声をかけてもらう等工夫をしている。	入浴時間、入浴の回数も利用者の好みや希望に全て添っている。浴室がフロアに接している配置が職員体制に影響されず、夕食後の入浴を可能にしている。	



自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの健康状態、生活リズムに気をつけ、個々に休息が取れるよう支援している。夜間眠れない入居者には、日中の活動を増やし、生活のリズムが出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬の説明書のファイルを作り、すぐに確認が出来、理解できるようにしている。薬への依存の強い方は、主治医に相談し、プラセボ薬を服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居される前に生活歴の情報を得て、それをもとに好きなこと、得意なことを活かした出番を見い出せるような場面作りの支援をしている。季節に合ったイベントや料理を取り入れ、今を楽しみ感じていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物や散歩は、ほぼ毎日出かけている。入居者の希望する所に可能な限り出かけている。見守りが必要な時は、希望の場所や馴染みの場所へ外出にしたり、家族とともに出かける機会を作っている。	毎日の散歩や買い物など、個々の身体状況に配慮しながら、これまでの生活の継続と感じられるよう外出の支援をしている。その日の様子・希望を把握し、その時々状況に合わせた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、家族の希望もあり職員が行っているが、買い物時に入居者から支払ってもらう等の支援をしている。お金を持ちたいと希望される方には、家族の了解を得て、一定の金額を自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より電話をかけたい、手紙を出したいと希望のある時は、その都度支援している。手紙が届いた際には本人に返事を書いていただき、手紙のやり取りをされている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は日よけによしずを立てかけ、冬場は石油ストーブを出すなど、居心地良く家庭的な雰囲気づくりを心がけている。玄関や居間など季節折々の花を飾り季節感を取り入れている。	建物1階が共有部分で居心地良く家庭的な雰囲気を感じるしつらえがなされている。リビングにはゆったりと出来るソファと畳の部分があり、食後の昼寝に活用することもある。リビング・食堂・台所とワンフロアになっていることが、利用者にとって良い五感刺激を与えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファで、自由な時間を過ごすことが出来る。玄関先のポーチ部分や2階廊下には、椅子を置き、入居者の団欒の場となっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた用品を持ち込んでいただくようにしている。また、必要なものはその都度、用意して頂いているので、入居者は安心して過ごされている。	個室は、和室・洋室のタイプがあり、それぞれ使い慣れた家具が配置されている。好みや身体状況によりベッドであったりマットを使用している。夜間の照明も個々の習慣を配慮し、カーテンを効果的に使用するなどの工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの要所には手すりが設置してある。流し台は、作業しやすいように低くなっている。立ったまま靴を履くことが困難な入居者が多いので、玄関に椅子を置いている。浴槽内にも転倒防止のため、滑り止めマットを敷いている。立ち上がりの困難な方には、浴槽内の椅子を使用している。			